

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	機能強化型在宅療養支援病院の多職種連携と地域包括ケアシステム
演者名	糸井真一 ¹⁾ 岡山容子 ¹⁾ 今林伸康 ¹⁾ 藤原仁史 ²⁾ 菊地孝三 ²⁾
所属	医療法人千春会 千春会病院 在宅医療部 ¹⁾ 内科 ²⁾

【目的】医療法人千春会は京都で医療・介護のネットワークを展開しており、その中核となる千春会病院は一般 60 床の小規模病院でありながら地域の“かかりつけ病院”としての機能を果たしている。機能強化型在宅療養支援病院として在宅医療には特に力を入れ、月間 400 件を超す訪問診療を行っている。訪問診療と多職種連携のさまざまな取り組みがなされてきたが、当院では他にあまり例を見ない特徴的な多職種連携に取り組んできた。

【実践内容】当院訪問診療に特徴的な多職種連携は、病院であるため入院療養を織り交ぜた在宅療養支援ができること、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスを提供していること、管理栄養士による在宅栄養管理を行っていること、などである。

【実践効果】独自の多職種連携の実例として①在宅支援病院における入院診療と訪問診療の連携：入院治療と在宅治療の垣根を低くシームレスにすることにより、「ときどき入院ほぼ在宅」といった療養を継続する事ができた 1 例②定期巡回・随時対応型訪問介護看護との連携：新しい訪問系サービスと連携することにより、きめの細かい栄養管理が可能となり経口摂取に移行、胃瘻抜去術を行った 1 例、③在宅における栄養管理：管理栄養士による訪問栄養管理により在宅療養が継続できた 1 例、について報告する。

【考察】重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう在宅療養を支えていくには医療と介護が一体的に提供されるサービスの提供が重要で、つまり地域包括ケアシステムの構築が大切である。そこでは地域医療を担う病院の役割は大きいですが、病院だけでは地域包括ケアを支えることはできず、介護事業所を含めた多職種連携が必要となる。我々は訪問診療と多職種が連携することにより患者・利用者を在宅中心に支え、地域包括ケアシステムを支えていくことに貢献していると考え